

学校教育目標	「自ら まなびあい みとめあい とものにのびよう さつきっ子」 ○自ら学び続け、共に学び合う子を育てます。(知) ○互いの違いを認め合い、思いやりのある子を育てます。(徳) ○心と体を鍛え、自分や人の生命と体を大切にすることを育てます。(体) ○地域の人・もの・自然とかかわり合いながら、共に生きる子を育てます。(公) ○様々な人とのコミュニケーションを大切に、社会に視野を広げる子を育てます。(開)				
	創立 32 周年	学校長 仲川 由佳理	副校長 安村 宏晃	2 学期制	一般学級: 16 個別支援学級: 2
学校概要	児童生徒数: 475 人 主な関係校: 谷本中学校 つつじが丘小学校 谷本小学校 藤が丘小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	谷本中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<言語活用能力> <認め合う力>	谷本中学校 つつじが丘小学校 藤が丘小学校 谷本小学校	①人・もの・こととの関わりを通して、豊かなコミュニケーション力をもつ子ども ②人と豊かに関わり、自他を認め合いながら、ともに学ぶ子ども  ブロックテーマ「笑顔であいさつ ～自分を認め、相手を認め～」 ・児童生徒の交流・・・中学校の授業参観 吹奏楽部の音楽会参加演奏 ・教職員の交流・・・授業公開、研究会の共同開催

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちが豊かなかかわり合いの中で、それぞれのよさを発揮できる学校づくりを目指します。</li> <li>・1年目は、特に対話的に学ぶ学習を取り入れ、授業改善を図ります。</li> <li>・2年目は、一人ひとりのよさを認め合い、自己肯定感を高められるようにします。</li> <li>・3年目は、協働的な学習活動を進めていきます。</li> <li>○地域との交流や様々な人とかかわる学習を充実させ、地域に愛着をもつ心を育てます。</li> <li>・3年間を通して、地域とのかかわりをもった学習を充実させ、楽しく学校生活を送れるようにします。</li> </ul>
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	①評価計画の見直しを図り、重点的に個に応じた支援を充実させていく。②ICT機器をより活用し、主体的、協働的、対話的な活動を取り入れ子ども一人ひとりがすすんで問題解決していく力を育む。③学校図書館の計画的な利用や読書活動を推進し、本に親しみ、学ぶ力を高める。
徳 豊かな心	①学年に応じた人権教育や道徳教育の充実を図り、外部講師を招いたり読書活動を通したりして、児童の人権感覚を養う。②場を工夫したたてわり活動を行い、思いやりと感謝の気持ち、自他を大切にすることを育てる。③「笑顔であいさつ」を合い言葉に、自然に挨拶ができるようにする。
体 健やかな体	①児童の運動や食事・睡眠に対する意識向上を図り、免疫力に対する関心を高める。②年間を通して避難訓練を中心とした安全教育を計画的に実施し、児童の「自分の命は自分で守る」という意識を高める。③手洗いや消毒など病気にかからない生活習慣や環境を継続して行えるようにする。
公 自分づくり教育 (キャリア教育)	①人・もの・自然とかかわり合う学習機会を積極的に設け、他者とかかわりながら自己有用感を高めるようにする。②キャリアパスポートの活用を充実させる。自分を振り返る機会を計画的に設け、自己の変容や成長を知ることができるようにする。
いじめへの対応	①定期的にアンケートを実施し、いじめの早期発見・早期解決に努める。②いじめ防止対策委員会を行い、校長のリーダーシップの下、全職員が一丸となっていじめへの対応や未然防止に取り組む。そのために、校内研修で未然防止の取組について共通理解を図り、教師の人権意識を高める。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①重点研究、メンター研修など、校内の研究、研修を充実させて計画的に行い、教職員の授業力や対応力の向上を図る。②全職員が主体的、協働的に課題改善を図りながら学校運営を行い、組織力を高めていくよう努める。③校内業務のスリム化を図り、働きやすい環境を作る。
地域連携 学校運営協議会	①登下校の見守り活動など、地域と学校が連携を図って安全対策を推進していく。②小中ブロックで各地域の代表者の方々と学校運営協議会の意義と役割について全職員で共有し、協議会を年4回、ブロックと学校独自で実施する。幹事校としてブロックでの活動を充実させていく。
特別支援教育	①個別指導計画に基づいて、全職員が個に応じた指導、支援をしていく。児童指導委員会等で特性や対応の仕方について共通理解し、学年・学級を中心に学校全体で理解し合えるようにする。②さつきルームの柔軟な活用を通して、落ち着いた雰囲気、担任や児童支援専任、養護教諭と話をしたり、自分と向き合ったりできるようにする。
児童生徒指導	①児童支援専任を核として、全教職員、関係機関との連携の下で、児童を支援、指導する体制を強化する。②児童の実態把握や保護者対応、教育相談のもち方などの研修を行い、学校カウンセラー、SSW、保護者と連携しながら対応していけるようにする。
教室環境整備	①各学年教室前や掲示板の整備・充実に努め、他学年の作品に触れる機会を設け、取組の視覚化を図るようになる。②準備室や教員室等の環境を整備し、安全でより豊かな児童の教育活動につなげていく。③誰もが安心して学習できるよう、教室のユニバーサルデザインに取り組む。